

議会だより



小豆島こどもセンターの入所式

- 審議議案 3月定例会について…………… 2～5
- 一般質問 10人の議員が質問…………… 6～13
- 子ども議会…………… 14・15
- 住民の声・まちの力…………… 16

まち」を目指して



新しい時代のまちづくり～

平成31年度の主な事業・新規事業



健康・福祉のまち

小豆島中央病院企業団負担金	2億650万円
重度心身障害者医療費助成の拡充	698万円
福祉避難所整備	300万円
産婦検診・産後ケア	137万円

定住・交流のまち

一般廃棄物最終処分場整備	12億6万円
瀬戸内国際芸術祭2019	4,791万円
危険ブロック塀撤去費支援	320万円
自治会集会所整備支援	200万円



産業のまち

プレミアム付き商品券 ※低所得者、子育て世帯対象	9,425万円
有害鳥獣対策	6,531万円
ため池等農地災害危機管理対策	303万円
地域ブランド確立推進	200万円

教育・文化のまち

奨学資金貸付	1億680万円
草壁公民館屋根改修	2,030万円
苗羽小学校トイレ改修	700万円
部活動指導支援	494万円
小学校英語教科化に伴う整備	374万円



行財政改革の推進

議会タブレットの導入	391万円
各種派遣研修	220万円
職員研修（全職員対象）	30万円

一般会計当初予算

97億5400万円を可決

「人が集い、元気な

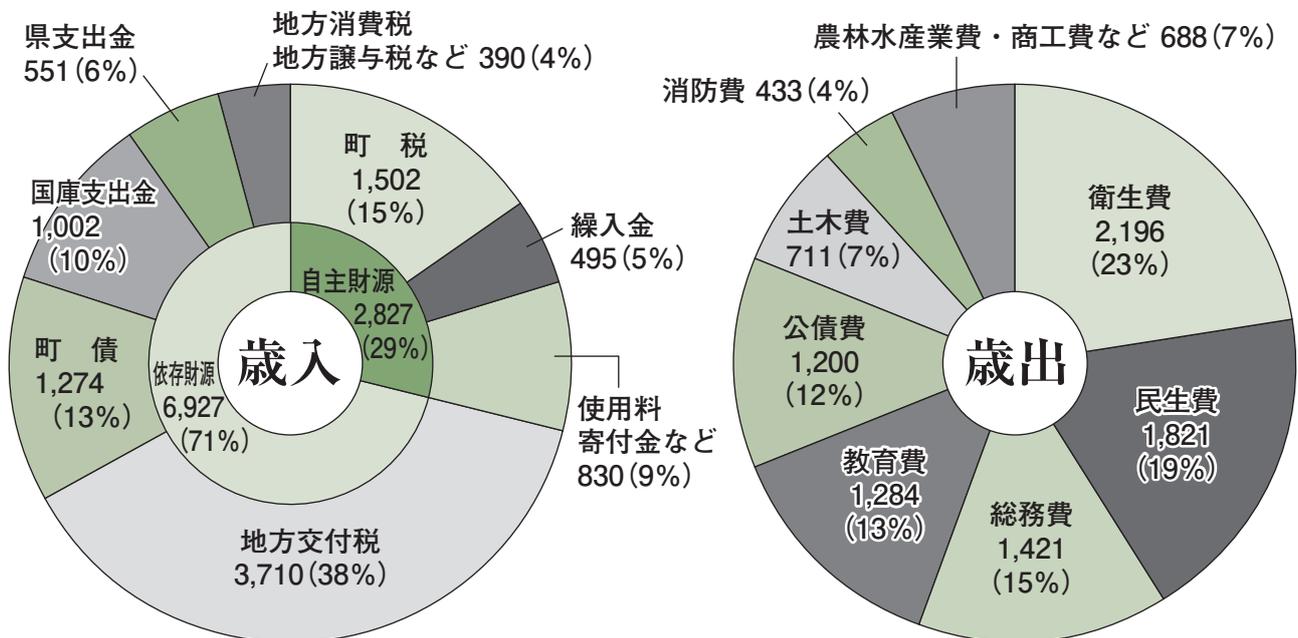
～新しい時代の幕開け

3月定例会を3月5日から3月22日まで18日間開催しました。

初日に、町長の施政方針の演説があり、人が集い、元気なまちを目指して、5つの柱に沿って予算を編成したことを表明しました。

10人の議員が一般質問を行い、町の将来に向けた討議を行いました。

町長からは予算案件11件のほか、条例案件11件、人事案件16件、その他案件4件が提案され、報告1件がありました。議員からは発議1件が提案されました。新年度の予算案件7件と条例案件2件は各常任委員会に付託し慎重に審査を行い、下記のとおり意見を提出しました。全ての議案は原案通り可決しました。



(単位は百万円、構成比は%、百万円未満は四捨五入)
※端数処理の関係上、数値が合わない場合があります

【委員会意見】

○総括意見

・委託料について、積算根拠を精査の上執行するよう努められたい。

○個別意見

企画財政課

・映像作品発信記念事業について、目的に沿って住民目線に立った事業内容となるよう検討されたい。

・オリーブバスの経営状況について、説明の場を設けるよう検討されたい。

住民課

・戦没者追悼式について、旧町ごとではなく全町で行えるよう、関係団体に対し積極的な働きかけに努められたい。

・交通安全施設事業について、予算が交付金の減少に伴って減少しているが、住民の要望が多い事業であり、一定程度の予算を確保するよう検討されたい。

オリーブ課

・温浴施設の利用料について、利用者の公平性を考慮した料金体系になるよう検討されたい。

教育委員会

・教育施設の方針について、早急に検討されたい。

社会教育課

・生涯学習のまちづくり補助金について、社会教育・社会体育の振興に重要な事業であるので、積極的な活用を促すよう努められたい。

審議した主な議案

補正予算

一般会計(第4号)

小豆島中央病院企業団への出資等で増となった一方、事業費の精算見込みや人件費の減により2496万円減の85億7810万円となりました。

(農林水産業費)

漁港整備工事費

1550万円

田浦・橘・吉田の漁港整備事業に対し、県補助金の追加内示があったため、事業費を増額しました。

(総務費)

作品制作等業務委託料

▲315万円

芸術作品制作費負担金

500万円

瀬戸内国際芸術祭2019実行委員会への負担金です。委託料として計上していましたが負担金に組み替えしました。

(衛生費)

小豆島中央病院企業団

出資金

1億4845万円

平成30年度収支見込による赤字相当分に対

して、両町から出資することとなりました。

介護サービス事業

特別会計(第1号)

人員減により、680万円減の7761万円となりました。

条例の制定

障害のある人もない人も共に安心して暮らせるまちづくり条例

町民が障害の有無に関わらず安心して暮らせるように、町の責務、町民及び事業者の役割について定めました。

質疑 町で障害者に対する差別事象は発生したのか。

答弁 病院の駐車場において、健常者が障害者用の駐車場に止めるといった事例が発生した。



障害者用駐車場

林業振興対策基金条例

平成31年度から始まる森林環境譲与税の交付金を活用するため、林業対策振興基金を設置することを定めました。

質疑 森林環境譲与税について、誰に対して課税されるのかなど、仕組みはどのようになっているのか。

答弁 国内に住所を有し、町県民税が課税されている方に対して課税される。現在、均等税5千円が課税されているが、そのうちの千円は東日本大震災の復興特別税として徴収されている。35年度まで徴収されるが、その後、森林環境譲与税として同額が引き続き徴収されることとなる。

条例の一部改正

町税条例

10月1日から制度開

始となる軽自動車税環境性能割の賦課徴収について、香川県が環境性能割を課さない軽自動車に対しては課税しないことを定めました。

放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

4月1日から制度開始となる専門職大学の前期2年を終了したもののについて、放課後児童支援員の基礎資格を有するものとして対象に追加しました。

質疑 専門職大学の前期課程修了とはどういう立場になるのか。

答弁 専門職大学とは、昨今の産業構造の急激な変化や将来予測が困難な社会が進む中で、高度な実践力、即戦力と豊かな想像力を持ち合わせる人材を育成することを目的に設置される大学である。4年制で前期2年、後期2

年となっており、前期を修了すると、短期大学士(専門職)という学位が授与される。

重度心身障害者等医療費支給の現物給付化に伴う関係条例

重度心身障害者への医療費支給の対象を身体障害者手帳4級と療育手帳Bを持つている方も追加すること、医療費の受給方法を町への申請から町が受給資格者に代わって医療機関に支払うことを定めました。

質疑 障害者手帳4級と療育手帳Bの方が何人なのか。また、窓口での手続きはどのようなものか。

答弁 4級が100人、Bが30人である。県内の病院にかかる場合は特別な手続きを必要はない。

介護保険条例

消費税10%への増税に合わせて、低所得者に対する介護保険料の負担軽減をすることを定めました。

町営住宅条例

町営住宅の入居条件を町内に住所又は勤務地があるものから、町内に住居を必要とするものへの変更と、連帯保証人を2人から1人に変更することを定めました。

新しい産業づくり条例

国の新たな支援制度創設に合わせて、補助額を改定しました。

道路占用料徴収条例

電柱や電話柱等の道路占用料を国道の占用料に準拠して改定しました。

その他

農業委員の任命要件

農業委員の過半数を占める必要がある認定農業者等（企業も含む）が少なくため、認定農業者に準じる者も対象としました。

質疑

町内に勤務地を有する方で入居された方はいたのか。また、今後の対応はどのようなのか。

答弁

今回は、U・I・Jターンをターゲットにしており、町内に住所、勤務地がない方でも入居できるようにする。

新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更

草壁港沖の埋め立て地の東側4haを草壁本町字下川西に編入しました。

瀬戸・高松広域連携中核都市圏の形成に係る連携協約の一部変更

連携協約の内容にICTインフラ整備を追加しました。

辺地総合整備計画の策定及び変更

新たに追加された計画は次のとおりです。

- 草壁辺地 草壁公民館屋根の改修
- 消防団可搬ポンプ更新
- 安田辺地 ため池耐震化
- 坂手辺地 橋梁の長寿命化
- 池田辺地 防火水槽の整備
- 町道宮の浦線改良
- ため池耐震化
- 苗羽辺地 橋梁の長寿命化
- ため池耐震化

人事案件

教育委員の同意

真砂高昭氏を教育委員に再任することに同意しました。任期は4年間です。

農業委員の同意

農業委員の任期満了に伴い、平成31年4月1日からの農業委員任命について同意しました。14人の定数に対して、再任11人、新任3人となりました。（敬称略）

再任

- 藤本龍男 藤本信悟
- 九野賢輔 八木宏和
- 今城 実 谷岡潤三
- 高橋武司 古川安則
- 秋長正幸 徳本 修
- 三宅徳昌

新任



岡 秀安 (池田)



人権擁護委員の推薦

山口眞理子氏を引き続き人権擁護委員へ推薦することに適任との答申を行いました。

報告

草壁地区改良住宅外壁改修工事

着工後の現場精査により、改修箇所に変更があったため、契約金額を増額したと報告がありました。

変更前 8586万円

発議

議会傍聴規則

議会の傍聴申請につ

いて、複数の人が1枚の紙に記入する受付簿から、1人1枚の用紙である受付票に変更しました。

全国町村議会 議長会表彰

議員として地域発展に尽力した功績がたたえられ、全国町村議会議長会から鍋谷議員、中村前議員が27年表彰を、森崇議員が15年表彰を受けました。



鍋谷 真由美議員



中村 勝利前議員



森 崇議員

一般質問

3月定例会で10人の議員が町政に対して質問をしました。その要約した内容をお知らせします。

大川 新也 (10P)

- 急ぐべきでは、幼保集約
- 大型ごみ無料収集の復活は
- 町内公共施設へのAED設置は

安井 信之 (11P)

- 原材料支給事業の採択要件の見直しを
- 小豆島中央病院へのかかわり方は
- DV・児童虐待の対応は

森 崇 (12P)

- 町職員の年次有給休暇の改善について
- 小豆島の明るい未来について
- 現代版「猪鹿垣」について

鍋谷真由美 (13P)

- 交通弱者への支援充実を
- 国保税の子ども均等割減免を
- 出産祝い金の検討を
- 自衛隊への名簿提供はやめよ

浜口 勇 (6P)

- 瀬戸内海を豊かな海へ

大下 淳 (7P)

- 教職員の長時間勤務の解消を

柴田 初子 (7P)

- 大規模災害時の防災・減災対策は

森口 久士 (8P)

- 観光の案内標識の整備は
- 農業振興地域整備計画に関して

藤本 傳夫 (8P)

- 小豆島町の文化伝統を世界に向け発信を

森 弘章 (9P)

- 過疎・移住者対策での「にぎわいの創設・町の活性化」を
- 過疎・高齢化社会での交通弱者への対応は
- 旧内海庁舎跡地のその後の活用計画と付帯工事の進捗状況は

【質問】 最近、小豆島周辺の海で魚釣りに行っても釣れなくなったりも嘆く知人がいた。漁業関係者に尋ねると漁獲量が減っているとのこと。この原因は何だろうか。昭和40年代、工場排水の垂れ流しで赤潮が発生して養殖ハマチが大量に死ぬ現象が続いた。「瀬戸内海汚染防止法」が制定されて今日までできたが、海がきれいになりすぎて魚のエサになるプランクトンが少なくなり魚が住みにくい海へと変化しているのではないかと。島は昔から漁業が盛んであった。将来も漁業で生活できる豊かな海づくりを目指してほしい。



浜口 勇 議員

瀬戸内海を豊かな海へ

町「広域的な枠組みで取り組みねばならない」

【答弁】 瀬戸内海は、工場排水や生活排水による水質汚濁は改善されたが、漁獲量は香川県全体で減少傾向である。原因は漁業従事者の減少、海水温の上昇、貧栄養化、底質のヘドロ化など漁業環境の変化が考えられる。海の問題は瀬戸内海の

広域的な枠組みで取り組みねばならない。安定した漁業を目指し関係者と連携して今後さまざまな取り組みをし、漁業の再生を図るため、豊かな海、里海の実現に向けて国・県に対して粘り強く働きかけを進めていく。



晴天時でも漁に出ない漁船

一般質問



部活動（陸上部）



大下 淳 議員

教職員の長時間勤務の解消を

町「健康を維持できる

環境づくりを進める」

質問 多くの学校用務で先生が忙殺されている。その主要因である。その主要因である。部活動の対策として、地域おこし協力隊と部活動指導員を配置することのことが、その人員や身分、勤務形態はどのようなものか

答弁 まずスポーツ分野で地域おこし協力隊員1人と雇用契約を結び事業を展開していく。その後、ICT教育や外国語教育などさまざまな専門性を持った隊員の採用を検討したい。

また、部活動指導員1人を特別職の非常勤職員として配置し、週5日で平日2時間、休業日3時間程度の職務を想定している。

質問 平成28年度の国の「教員勤務実態調査」に対する認識と小豆島町の現状はいかがか。

答弁 教職員の長時間労働を裏付けるものと認識している。また、小豆島町の現状も実態調査と同様であると考えられる。

質問 本年4月から働き方改革がスタートするが、部活動だけでなく、教職員にかかる負担の軽減をどのように進めていけるのか。

答弁 教職員の働き方改革に早急に取り組むべきと考えている。勤務時間の把握に努めるとともに部活動ガイドラインと教職員働き方改革プランを策定して4月から実施する予定としている。

また、ノー残業デーを増やしたり夏季休業中における学校閉庁日を設定したりして負担の軽減を進めていく。夜間・休日の留守番電話対応については、中学校で昨年10月から実施している。



柴田 初子 議員

大規模災害時の

防災・減災対策は

町「液体ミルクの

備蓄、検討する」

質問 ① 災害時の避難所に指定されている学校の体育館に空調設備を。

② 香川県が2月の県議会において、ドクターヘリ導入検討委員会を設置した。小豆島町から再度の早期導入の要望を。

③ 待望の国産乳児用液体ミルクが発売された。哺乳瓶に移して、そのまま飲ませることができるとこの液体ミルクを災害時の備えとして備蓄する考えは。

答弁 ① 空調設備の設置には、多額の費用がかかることから、整備することは非常に難しい。各教室には空調が整備されているので、急きょ避難所として使

用する場合の運営方針を教育委員会および学校と協議し、教室を開放したい。

② ドクターヘリの早期導入実現へ大いに期待する。小豆島島しょ部の実情を十分に県に伝える。

③ 国産液体ミルクは3月11日に新発売され蓄している。

たばかりである。認知度が上がり、安全面の不安が払拭され広く普及し、各自自治体も備蓄品として検討していくと思うが、本町としても使用した人の評判を加味した上で検討する。現状はスティックタイプの粉ミルクを備蓄している。



発売された液体ミルク

一般質問



森口 久士 議員

観光の案内標識の整備は

町「英語表記・標識自体の撤去も

あわせて計画的に改修していく」

質問 かなり傷んだ観光の案内標識が数多く見られる。いつごろどのような内容で整備されるのか。

答弁 経年劣化により、表示が剥がれたものや一部さびたものが見受

けられる。観光地のイメージには好ましくない。

一部の改修や撤去等は実施しているが、早速対応について小豆島観光協議会と相談のうえ、英語表記・標識自体の撤去もあわせて計画的に改修していく。



傷んだ観光の案内標識

農業振興地域整備計画に関して

町「アンケート調査の意見や各種団体の意見を伺い、農用地の区域を定める」

質問 「農地の有効利用や農業の振興に関する施策を大きな計画としてまとめ、農業の健全な発展をめざす」とあるが、高齢化や担い手不足、有害鳥獣の被害等の理由で耕作放棄地となる。解消するため、今後の対応は。

答弁 農業振興地域整備計画の策定は、アンケート調査の意見を勘案し、農業関係団体で構成する農業振興地域対策協議会、農業委員会・農業協同組合の意見を伺い、農用地の区域を定める。耕作放棄地の解消に

は、有害鳥獣の対策のほか、新規就農者への支援等の担い手確保や農地集積、単県事業となった荒廃農地利活用促進事業等各種の事業等を複合的に推進する必要があり。関係団体と連携し、農地の有効活用を推進していく。



藤本 博夫 議員

小豆島の文化伝統を世界に向けて発信を

町「歴史文化基本構想策定事業において情報発信を検討していく」

質問 小豆島町の文化・伝統である太鼓台や農村歌舞伎、幟さし、安田踊りなどを世界に向けた情報発信の1つとしては。以前に秋祭り

を記録した映像があったと思うが、町のホームページの見直しを計画しているようなので、そこで文化・伝統のコーナーを作って放映してもらいたい。

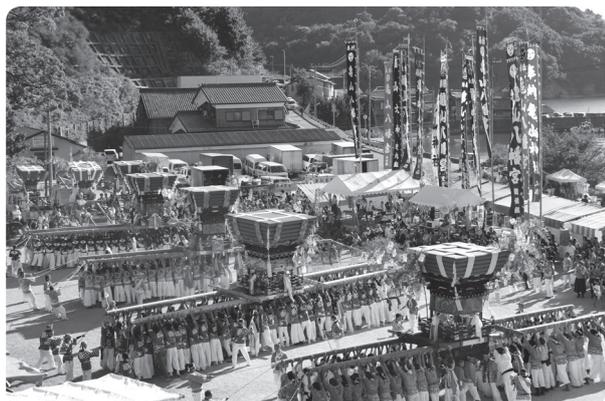
東京小豆島会創立百周年記念事業として明治神宮で太鼓台奉納を行った事があるそうだが、姉妹都市の茨木市や交流のある神戸市のフェスティバル等で太鼓台の演舞を行っては。

答弁 歴史文化基本構想策定事業は町内の歴史、文化を総合的に把握して、保存方法や活用方法を策定するものである。その策定作業において情報発信を検討していく。

ホームページでは動画への対応は可能である。記録媒体がいろいろあるので確認が必要だ。

太鼓台の茨木市や神戸市での演舞は、町の魅力の情報発信のほか地域のコミュニケーションの推進や郷土愛の醸成に有効な手段だと思

う。実現に向けたいろんな課題を解決するには、太鼓



亀山八幡宮例大祭

過疎・移住者対策での

「にぎわいの創設・町の活性化」を

町「施政方針で掲げた行政サービスの

実行をもって、鋭意こたえたい」



森 弘章 議員

【質問】 20年後の小豆島町の人口について、高齢化率51%・予測人口8800人余りと予想されている。過疎・少子化対策は一行政機関では難題と思うが、他市町では、休憩施設「道の駅」が人集め、地域活性化の新たな拠点となり、なかでも、住民参加の併設、農産・魚介類の直売所や、その地場産品での飲食施設が人気を呼び、新たな職場の提供と相まって、「地域のにぎわい・活性化」をもたらした結果的に人口増につながったと。残念ながら、当地の道の駅には、地域を巻

き込んだ活動、また魅力に乏しく、今後の活用、新たな拠点づくりが望まれるのでは。島への昨年の入込観光客は106万人、単純に計算しても一日2900人の往来があるなかで、これを国内版、島へのインバウンドととらえれば、町の活力づくりには十分な人数と思えるが、新たな取り組みに活用できないか。

【答弁】 小豆島の最大の課題は人口減少と少子・高齢化であり、この課題、難題は容易に克服できないが、施政方針でも述べた、人口減を少しでもゆるやかに、人が集い元氣な町づくりを今後も鋭意取り組んでまいりたい。2カ所ある「道の駅」は現在、施設独自の「にぎわい」を取り組むべく、瀬戸内芸術祭

において地域資源を活用したマルシェの開催等、新たなイベント開催を計画している。年間100万人を超える観光客は、指摘の通り国内版インバウンドであり、この上ない小豆島ファンの皆様で、今後、移住・定住、ひいては社会増に転じる可能性もあり、施政方針で掲げた5本の柱に沿った各種施策を着実に進め、にぎわい創出、町の活性化に努めたい。

過疎・高齢化社会での交通弱者への対応は

町「公共交通は島の社会的資本と位置づけ3者共同体での持続可能な、よりよい運営を目指す」

【質問】 近年、過疎地での企業、団体、商業施

設等の縮小、廃業により、点と線で結ばれていたライフラインは寸断され、高齢化社会での、生活基盤の維持管理は困難をきわめ、日常生活での公共交通の重要性は増している。新材料金制度により、オリーブバスの利用客が1.7倍になったと聞くが、運賃上限300円や、補助金による通学定期券の軽減措置等、その料金体制を含めた補助制度のもとで、今後の運用・運営状況の展望は。また、先の「小学生議会」で指摘のあった、他の交通機関とのアクセスのとれた運行ダイヤへの対応は。

【答弁】 平成26年、公共交通に関する法律「活性化再生法」が改正され、それを機に島の公共交通体系の抜本的見直しを図り現在に至っている。利用状況では、学生定期券37%、フリー乗車券では再編前対比、2.5倍になるなど安定した経営基盤の構築に寄与している。料金体系を含めた、

今後の展望としては公共交通を小豆島の社会的資本と位置づけ、バス事業者、土庄町と一体となり、持続可能な公共交通の実現を図りたい。小学生議会での他の交通機関とのアクセスのとれた運行ダイヤに関

しては、即日、オリーブバス会社にダイヤ見直し検討の申し入れを行ったが、島内6カ所ある港と接続する特異な環境下での事情もあり、地域の要望、関係機関との調整、協議を重ねたいとの返答を頂いている。

旧内海庁舎跡地のその後の活用計画と付帯工事の進捗状況は

町「民間企業への売却も視野に付帯工事と合わせた有効活用を図りたい」

【質問】 昨年、伺った庁舎跡地の活用と付帯工事だが、その地が陸上交通の結節点であり、住民が日常生活するうえでの要衝の地であること。

画であるが、指摘の通り、当地は、福田・坂手・土庄方面へと向かう交通の要衝の地であり、金融機関、大型店舗等、日常生活での町民の重要な場所でもある。活用については、行財政改革を進めるうえで、この地を町の活性化につなげてくれる企業等があれば、売却することも踏まえ、付帯工事と合わせた、町民の皆様にとってよりよい利用方法を早急に検討したい。

【答弁】 旧内海庁舎の現況については、31年度において庁舎と消防旧分署を解体、撤去の計

急ぐべきでは、幼・保集約

町「早急な幼・保改革は難しい」



大川 新也 議員

を考えて今すぐ取り組むべきと思うが。また手狭な内海保育所の現状は。

【質問】

小学校、幼・保集約について就任時には「再検討」また9月議会では「幅広く丁寧に見聞を聞き議論を深め、早い時期に議会へも相談する」今回の所信表明では「今すぐ取り組むべきこと、将来を見据え検討することを見極める」とある。

この間、何度の会合を開き、どのような意見が出たのか。議会には一度の相談もないが。新年度内海地区の幼稚園新入園者は星城3、安田3、苗羽3、旭3と聞いている。幼保集約は子どものこと

を考えると、全ての幼稚園・保育所・私立認定こども園へ出向き、計8回会合を開催、保護者から様々な意見があった。幼稚園については、老朽化等の問題が多いため2年前に示した統合認定こども園案は地元の見解もあり、中止になった。

【答弁】

小学校の統合に関し、全ての幼稚園・保育所・私立認定こども園へ出向き、計8回会合を開催、保護者から様々な意見があった。幼稚園については、老朽化等の問題が多いため2年前に示した統合認定こども園案は地元の見解もあり、中止になった。

土曜日が休み、土日行事に対する振休等教育施設特有の仕組みがあり、保護者のニーズ全てにすぐにお応えできる幼稚園への改革は難しい。今後は仕組み変更を検討したい。内海保育所については定員40人であり、26

年度末に61人入所で手狭状態であったが、30年度末は38人と落ち着いたのかと思う。



入園児激減の幼稚園

町内公共施設へのAED設置は

町「まずは各消防屯所へ配備する」

【質問】

先月夜間に土庄町の体育施設にて、若年者が運動中に心肺停止状態となり、設置されていたAED使用で一命を取り止めた。緊急時の初期対応の重要性を痛感した。

土庄町には各公民館にAEDが設置されているようだが、当町の設置状況、今後公民館等への設置予定は。

【答弁】

町内公共施設への設置数は約20カ所、民間施設には30カ所ほど設置している。

今後国の補助金を活用して、まずは町内の消防屯所への配備を予定している。

理由としては、常に原則的に施錠されていない屯所、またほとんどの消防団員が救命救急講習を受講してお

大型ごみ無料収集の復活は

町「無料臨時収集の再開は困難」

【質問】

27年6月から開始された大型ごみ有料収集の現状は。最近、町内の田畑、山林への大型ごみの放置、不法投棄が起こっている。有料回収が果たしてこれで良いのか。

【質問】

27年度処分場への搬入量は639トに対し、現在は5、6トと100分の1で多くが各家庭の倉庫に眠っているか、不法投棄されているのではないかと。無料臨時収集の再開は。

【答弁】

27年6月から開始の個別回収はごみの排出抑制、再生利用の促進、廃棄物処理コストに対する住民意識の改革を目的とし、高齢者世帯の排出負担も配慮しての導入である。

不法投棄については、制度導入の前後で発生件数に大きな変化はない。現状の発生件数は町内で年間10件

り、屯所設置が最適と考えている。公民館への設置は予算の都合もあり今後検討したい。



公民館への設置は

未満である。また、最終処分場の逼迫する現状では、排出抑制に努める必要もあり、無料臨時収集の再開は困難と考えている。

原材料支給事業の

採択要件の見直しを

町「今後検討したい」



安井 信之 議員

質問 原材料支給事業については、災害指定地域内で地元自治会が必要と考える場合、民地要件を外した形で採択されるようにすべきだ。

コンクリートだけの支給であったが、平成17年度よりニーズの変化にあわせて、生コンクリート以外の材料の支給もできるような社会情勢やニーズの変化に合わせて制度改正を柔軟に行ってきた。公共用地だけでなく防災対策に関するものは民有地も新たに対象とすることはできないかということ、今後検討したい。

答弁 原材料支給制度は、小豆島町原材料支給要綱に基づき、里道や水路という法定外公共物等の維持管理に必要な材料の費用を自治会等に補助するものである。



舗装が必要な道

合併前よりそれぞれの旧町で実施していた制度を引き継いだもので、制度開始当初は生

小豆島中央病院への

かかわり方は

町「財政支援、特に人的支援を行っていききたい」

質問 小豆島中央病院は島にとって大変重要な存在であるが、これからどのように関わっていくのか。

連絡調整会議をこれまで年に2、3回行うことで、2町が意見をし、協議をしてきたが、昨年の10月以降は、毎月1回開催をしている。

答弁 まちづくりには、医療という基盤を欠かすことができない。安心して暮らすことができる基盤があるからこそ、小豆島町はもとより、小豆島全体の発展があると考えている。今、小豆島中央病院の経営状況は芳しくないが、この小豆島から医療がなくなるという事態はあってはならないことである。

現実には2町立の病院で、積極的に関与していかねければならなく、いろんな面で協力していききたい。2町長と企業長との会議も、昨年11月からは毎月3者懇談が持たれ、トップの意思疎通も図りながら病院の経営に努めていききたい。



小豆島中央病院とのかかわり

答弁 児童相談所による児童虐待対応件数は年々増加の一途をたどっており、社会全体で解決すべき深刻な課題と認識をしている。本町は、平成23年11月に作成した小豆島町

DV・児童虐待の対応は

町「早期発見、早期対応に努めている」

質問 最近、児童虐待に関する報道が多くさされているが、町ではどのようなマニュアルで対応しているのか。

児童虐待対応の手引きにより、また、学校現場では香川県教育委員会が平成21年8月に作成した学校向け児童虐待防止マニュアルにより、関係機関との連携を図り、虐待の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。

このほか小豆島中央病院、学校や保健所、警察署など関係機関との連携を図るため、小豆島町虐待防止等ネットワーク協議会を組織し、情報の共有、個別会議、研修会の実施などに努めている。

児童を虐待から守るには未然防止、早期発見、早期対応が何より重要だと考え、適切な対応ができるよう努めていききたい。

町職員の年次有給休暇の改善について

町「休みが取りやすい

職場環境に努めたい」



森 崇 議員

本に広がってきた。世界的、国民的課題で改善すべきだ。

質問 先日の新聞に日本の年休取得率は世界で最下位と載っていました。ブラジル・ドイツ・フランス・香港・スペイン・タイが100%でイギリス96%、アメリカ71%、オーストラリア70%で日本は世界最低の50%だった。上司の年休に対する考え方も影響している」と記載されていた。前回の町の答弁は「各課に任せている」でしたが不十分だと思

う。昭和54年からの週休2日制も世界から日

答弁 仕事を頑張るには心身ともにリフレッシュすることが大切だ。一昨年の年休は平均7・6日、消化率38%で不十分だ。計画年休などを含めて休みが取りやすい職場環境に努めたいと考えている。

祝日は日本が抜きん

で多いようだ。しかし各国の休日数状況が分らないので有給休暇だけでは判断が難しいと思う。

夏季特別休暇3日を現状の7月取得を改善し6月からにする計画である。

小豆島の明るい未来について

町「知恵と力を結集してゆく

決意こそ欠くことが出来ない」

質問 町長の施策方針にもあるが少子高齢化が進んでいる。小豆島全体で1年に500人口が減っている。10年で5千人減少が起これば、規制緩和は大手の会社のみが有利になり地方の商店は疲弊する一方である。当時酒屋さんが全国で150人自殺されたのを忘れられない。頼りにしている合併特例債も来年までの中、小豆島の未来を共に考えなくては

と思う。私たちの進む道は非常に狭いと思う。若い人たちは今どんなことを考えているのかとも思う。町の考えは。

答弁 小豆島の最大の課題は人口減少と少子高齢化だが決して容易ではない。明るい未来は自分たちの知恵と力を結集してゆく決意こそ欠くことができないと考えている。そのためには私が強いリーダーシップをとり町職員一丸となり「明るい未来」を切り開いていく所存である。

東京・幕張でトレードショーがあったが若い人たちが夜中の1時まで何回も議論してきた。その地域の地場産業に勤める後継者、また営業マン、そういった方々の共通点は現状に対する危機感がある。その後の管理も大切である」

現代版「猪鹿垣」について

町「環境づくりがポイントで、

その後の管理も大切である」

質問 昔の人たちは約30年かけて120^キもの猪鹿垣を自普請で作

り人間と鳥獣の住み分けをした。池田の長崎などで見ることができ

る。今、政府も豚コレラ問題で揺れ動いている。町は解決のため、里村共生室を作ったと思うし、小豆島でもけがをした人がいる。私も放置できないと思いボランティア組織を作ったが何もできていない。日本の猪鹿垣の本も出ている。勉強会も必要だ。

答弁 野生鳥獣被害の深刻化・広域化に対し「捕獲・防護・環境づくり」の強化を図っているところである。中でも猪と鹿の捕獲実施隊員の尽力で大幅に効果を上げているが減少には至っていない。

地域ぐるみで取り組む環境づくりがポイントで、その後の管理も大切である。町職員は鳥獣害防止のための煙火や花火等の講習を受けている。



長崎の猪鹿垣

交通弱者への支援充実を

町「施策の効果等を検証して検討」



鍋谷真由美 議員

質問 通院困難者支援事業で月2枚のタクシーチケットの助成があるが、月2枚では足りないし、買い物などにも利用したいという声があるが改善はできないか。

また、障害者や要介護者以外の交通弱者へのタクシーチケットの補助などの施策も検討をしていただきたい。

答弁 交通弱者への支援は、運転免許返納者へのバスチケットの助成、軽度家事支援事業、また商工会が実施する移動販売に対する支援等により施策の充実を図ってきた。これら施策の効果や利用者の実態等を検証の上、今後のあり方について検討していきたい。

平成31年度 小豆島町通院困難者タクシー助成券		No. 1	
助成券番号	第 号	500 円	
氏名			
発行年月日	平成 年 月 日	発行所	小豆島町長印
有効期限	平成 年 3月31日	乗車日	年 月 日
乗務員記入欄	乗務員氏名	会社名	

タクシー助成券（見本）

一般質問

国保税の子どもの均等割減免を

町「国の動向を見ていく」

質問 全国でも、「子育て支援に逆行」と指摘されている国保税の子どもの均等割を独自に減免する自治体が広がっている。

答弁 引き続き国の検討状況等を含め、その動向を注視し、情報収集に努めたい。

出産祝い金の検討を

町「実施する考えはない」

質問 施政方針でさらなる子育て支援の充実を図っていくと言われたが、具体的にはどのような考えているのか。例えば、第3子出生時にエンゼル祝い金として10万円を支給している土庄町など、県下では2市5町に出産祝い金制度がある。

答弁 平成31年度は二丁調査を行い、広く意見をいただき、すくなく子育て応援次期アクションプラン策定に取り組み、子育て支援を充実させたい。県下で2番目に安い保育料、全額免除もある奨学金制度、高校通学定期助成制度など多彩な支援を行っているので、出産祝い金を実施する考えはない。

自衛隊への名簿提供はやめよ

町「今後も提供する」

質問 安倍首相の9条改憲論は、9条1、2項をそのままにして自衛隊を書き込むというもので、その狙いは戦力不保持を規定した2項を死文化させ、海外での武力行使を無制限に可能にすること。そうしたもとで、適齢者名簿を強制的に提出させることは、若者を戦場に強制動員することにつながる。

ない。個人情報やプライバシー権を保護する観点から、本人同意なしの名簿提供を直ちにやめるべきだ。

答弁 個人情報保護条例では、国の機関が事務または業務の遂行に必要な限度で個人情報を利用し、かつ利用することに相当な理由があるときは、個人情報を提供できると規定されている。

自衛隊は信頼できる国の機関であり、情報漏えいや悪用は考えられず、純粋に自衛官募集への協力が求められれば、今後も情報を提供する。

町内4小学校による 小学生議会



ゆみき さくら (池田)
弓木 咲来 議員

質問 中山の路線バスについて、増便やダイヤの見直しをすると、住民や観光客のためになると思うが、その計画はあるのか。

答弁 多くの人に利用してもらえるよう考えているが、車両の台数や運転手の人数には限りがある。今後、時間帯を見直しする際の貴重な意見として、バス会社にはしっかりと報告する。



おかだ さら (池田)
岡田 彩楽 議員

質問 夜暗くなってきて外に出ると、街灯が少なく真っ暗で怖いときがある。池田全域に街灯を整備する計画はあるのか。

答弁 街灯の設置は自治会にお願いしており、整備する計画はない。町としては設置した街灯の電気代の一部補助や、軒先などに設置する防犯灯の設置に対する助成を行っている。



もり やまと (池田)
森 大和 議員

質問 南海トラフ地震が起き、大きな津波が来ても大丈夫な場所はあるのか。また、そのような計画はあるのか。

答弁 町では「津波ハザードマップ」を作成し全家庭に配布している。津波が発生した時の避難場所について記載しており、そちらに避難していただくようになる。



にしだ あやの (星城)
西田 彩乃 議員

質問 東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、パブリックビューイング会場をつくってはどうか。

答弁 小豆島高校が初めて甲子園に出場した時、サン・オリーブを会場に、パブリックビューイングを行った。町民参加型の貴重な意見として参考とさせていただく。



かまだ まゆ (星城)
鎌田 茉佑 議員

質問 小豆島のブランド化などの小豆島をアピールする仕事を支援すれば、新しい職場づくりにつながり、若い世代の島離れの改善につながると思うがどうか。

答弁 新しく開業する方や新規の事業を始める方に費用の一部を助成している。また、若い人を中心に、経営を勉強する塾を開き、島の将来を背負っていく人材育成に力を入れている。



はらだ あいる (星城)
原田亜生琉 議員

質問 小豆島をアピールして観光客が訪れ、その方たちがSNSで情報発信すれば、相乗効果が期待できる。小豆島をアピールする企画はどう考えているのか。

答弁 小豆島観光協会のHPで島の自然や伝統文化等を動画公開している。町でもSNSで情報発信をしたり、FM香川にブログやラジオで情報発信を行ってもらっている。



池田・星城小学校の
小学生議員の皆さん



1月31日に4小学校の代表者12人が小学生議会に参加しました。前半は安田・苗羽小学校の児童が、後半は池田・星城小学校の児童が小学生議員となり、町に対して、子どもの視点からみた町づくりに対する質問を行いました。



うえだ かいせい (安田)
植田 快晴 議員

質問 島を一周するループバスは出来ないか。船の乗客がバスに乗るまで待っていただけでないか。草壁の高速艇の復活はあるのか。

答弁 ループバスは観光路線として便利だが、経費が必要である。バスのダイヤは、時間帯を見直す際の意見としてバス会社に報告する。高速艇は今のところ復活するとは聞いていない。



ささき かりん (安田)
佐々木花凜 議員

質問 小豆島のきれいな星空の下で野外シアターをすると、小豆島の魅力が増えるのではないかと。映画館のない島民にとっても魅力的だと考えるがどうか。

答弁 野外シアターを行うとすれば、町ではいろいろな候補地があるが、ふるさと村のイベント広場がいいのではないかと。貴重な提案として参考にさせていただく。



すみの ゆうと (安田)
炭野 優人 議員

質問 捕らえたイノシシを焼肉や鍋料理として提供するお店を作ったり、いろいろな革製品を作って販売してはどうか。

答弁 皮を加工販売している人はいる。しかし、肉を提供するには専用の処理施設が必要であり、肉処理の許可を受けなければならない。イノシシを資源として有効に活用していきたい。



おかべ しんた (苗羽)
岡部 志太 議員

質問 大学を設置すれば島外に出る人が少なくなるだけでなく、島外からの若い人が増え、若い人を対象とした商店や企業を誘致できるのではないかと。

答弁 大学を運営していくことは経費が多くかかり難しい。島で勉強するのも大切だが、島外の大学に進学し、その地域の文化に触れるなど、外の世界で勉強することも非常に大切である。



ことう こはね (苗羽)
後藤小羽音 議員

質問 通学路に街灯が少なく、夜は事故や事件が起きやすい。特に寒い季節は暗くなるのが早く、危険性が高いので、街灯を増やしてはどうか。

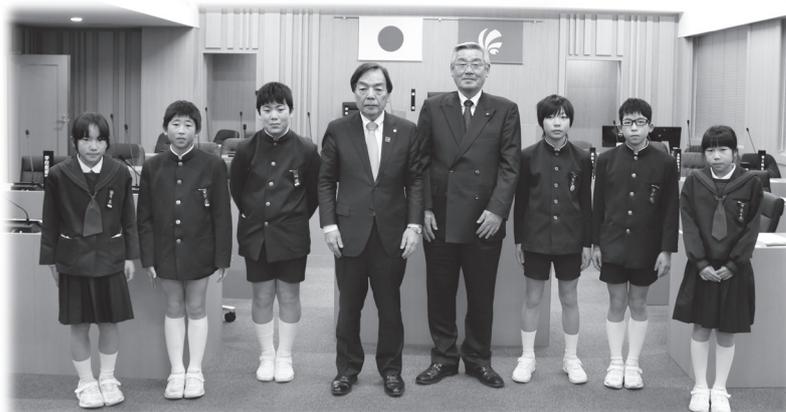
答弁 商工会管理の街灯が60基しか点灯しておらず、暗くなったとの意見が寄せられている。今後60カ所ほどLED化し再稼働する予定である。今年より街灯設置の補助を行っている。



ささたに ひろと (苗羽)
笹谷 祐人 議員

質問 遊園地やアスレチックといった施設は、家族連れを中心にみんなが楽しめ健康にも役立つと思うのでつくってはどうか。

答弁 今すぐ施設を作るのは難しい。自然豊かな小豆島全体は遊園地であり、アスレチックと言えるのではないかと。小豆島でしかできない遊び方を家族や友達と工夫してみてもどうか。



安田・苗羽小学校の
小学生議員の皆さん



見どころ いっぱい神浦

中島 克己

(神浦地区自治会長)

神浦地区は三都半島南部に位置し世帯数60世帯、113人の高齢化が進む集落です。集落から海を眺めると円錐形の丘陵である権現崎が突き出ており、その中腹には皇子神社が鎮座しています。その社叢は全体をウバメガシ等に覆われており、国の天然記念物に指定されています。小豆島の一番南に突き出た三都半島の先端には地蔵埼灯台があり、さぬき百景、夕日百選に選ばれ、前は瀬戸内海、大小の船が行き交いその先には鳴門海峡も見える絶景の眺望です。

10月16日の亀山八幡宮例大祭では、太鼓台を船に乗せ、裸、鉢巻き姿の若衆が亀山八幡宮の

浜の鳥居を目指して息も切れ切れ、六丁の櫓を漕ぎ着岸と同時に馬場まで一気に担ぎ込む「押し込み」は、祭りのひとつの見せ場となっています。

この春からは瀬戸内国際芸術祭2019が始まります。前回の2016では、広島市立大学の先生をはじめ、学生有志の方々が滞在し、廃材を活用した潮耳荘は、地区の観光スポットとして今も多くの観光客が訪れています。今回も広島市立大学の有志の方々をはじめ多くの芸術家が新たな作品を展示する予定となっています。私たち神浦自治会も接待を行っておりますので、たくさんの方が訪れるのをお待ちしております。



廃材を活用した潮耳荘

今年度は瀬戸芸の開催年でもあり国内外から文化に関心のある人々が数多く集まります。文化活動の与える力は生き甲斐とか楽しみ、それに伴う人の輪、文化鑑賞等数多くの力があります。町の掲げる教育・文化の町として社会教育の生涯学習分野の一端を担えたいと思います。少子高齢化の今こそ文化の力を最大限に発揮して文化の薫り続ける町として努力を続けていかなければならないと



設立50周年写真展の様子

代表者 久留島 克彦
082-223209

発足は昭和35年で、昭和49年の旧内海町文化協会設立時に入会し、合併後小豆島町文化協会となり現在に至っております。現在の会員数は16人で年間の恒例行事としては毎月1回の月例会、年に三度の撮影会、年に一度の写真展、オリーブギャラリー写真展の開催と文化協会展の出展等となります。

思っています。写真はデジタルカメラになり誰でも簡単に失敗を気にすることなく写せるようになりました。一緒に楽しく写真を撮り学びませんか。写真に関心のある方などでも月例会等の見学、入会希望を受け付けておりますので遠慮なくご連絡ください。



まちの フォト集団オリーブ

議会を傍聴しませんか。

次回定例会の予定は 6月中旬 です。

編集後記

あをによし
奈良の都は咲く花の
にほふがごとく
今盛りなり

春の陽光と共に、「令和」(厳しい冬の後には梅のように美しい花を、一人一人が明日への希望と共に咲かせられる日本でありたい)と、またひとつ、新しい時代の訪れです。

どんなボエムに、どんな出来事に、遭遇するのでしょうか。町の未来を乗せて、これからの夢膨らむ出来事に、この紙面にはどんな活字が躍るのでしょうか。

真っ白い第一ページ
新年度の紐解きます。
確実で、できうる限りの明るい町の取り組みを記してまいりたいと思っております。

森 弘章 記

本紙に対する
お問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4492 香川県小豆郡小豆島町片城甲44-95 TEL(0879)82-7060 FAX(0879)82-7061
E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp